

(学年) 1 学年、(教科・科目) 芸術 美術 I

一斉授業

(単元) 視覚のトリックを生かして

(本時のねらい)

人間はこれまでの経験や先入観でものを見てしまう傾向があるが、その見方を利用することで不思議な作品が生み出されてきた。絵の中から別の図像が現れたり、現実には有り得ない情景が現れたりする、視覚のトリックを生かしたアートは、ユーモアと驚きがあり一般的にも人気がある。様々な作品から工夫や効果を感じ取りながら、自らの不思議な世界を発想し、楽しみながら表現できるようにしたい。また見る人の反応を意識した制作を体験させたい。

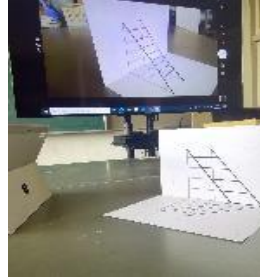
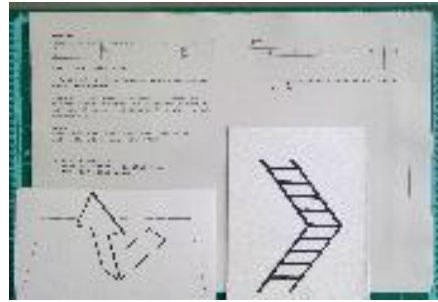
(ICT 活用方法)

視点の位置によって立体的に感じたり、現実には有り得ない情景が浮かび上がるように見える仕組みを理解し、トリックアートに関心を持たせる。従来は作品例として教科書の写真等を活用することが多かったが、カメラを通しディスプレイに映しながらトリックが成立する視点まで動かすなど、実感のある鑑賞ができる。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT 活用方法
10分	・エドガー・ミューラーやベンハインの作品を鑑賞し、視点の位置による錯視について理解する。	・何をどのように風景と組み合わせることで、現実には有り得ない情景を描いているのか、そのユニークさに着目させる。	・錯視を体験できる作品や動画を鑑賞する。特に地面を利用したトリックアートの壮大さを感じられるようにする。
20分	・ある視点からみると立体的に見える小作品を試作する。	・少しの描き込みや工夫で錯視が起こせることを体感させる。	・描き方等の手順を分かりやすく提示しておく。
15分	・できあがった小作品を一人一台端末のカメラを通して、立体的に見える角度を探り、撮影してみる。友人と協力したり見せ合うのも良い。	・特定の視点からのみ、立体感を感じることを実感させる。改善点に気づかせ、トリック成功のコツをつかませる。	・カメラを通すことで、自分の制作するトリックアートを客観的に確認させる。
5分	・小作品を参考にしながら、次回からの制作のテーマを聞く。背景とモチーフの関係を考える。	・どのようなモチーフを組み合わせると驚きを演出できるのか、イメージをさせる。	・身近なものに描かれた作品を提示し、工夫や効果を紹介する。

(授業の様子)



(生徒の反応と課題、改善を要する点)

教科書の作品の制作工程を知ることで、トリックアートに興味を持ち、積極的に他の作品を鑑賞したり、制作にも意欲的に取り組むことができた。また互いの作品を見合うことで効果的な表現の工夫について考えられている。美術を身近に感じ、楽しみながら発想を広げられるよう、今後も ICT 活用について考えていきたい。